

永井先生からのメッセージ No.3

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2022年 11月4日(金) 野毛山幼稚園

【子どもの言い分 ～受け止め方・あれこれ～】

元小学校教諭 永井 裕



▶これらは、『子どもの言い分』のほんの一例ですが、「どう受け止め、どう言葉を返していけばいいのか？」親として、避けては通れない問題です。

▶現に、まだ幼児期とはいえ、「みんなが持っているから買ってよ！」といった『言い分』に、頭を悩まされてるご家庭も、決して少なくはないでしょう。

▶そして、日々発展する社会。『子どもの言い分』は、昔とは違う、予測不能なものになっていく・・・そんな覚悟も必要になってくるのかもしれない。

子どもは成長してゆくとき、時にその成長のカーブが急上昇するとき、自分でもおさえ切れない不可解な力がわき上がってくるのを感じる。それを、何でもいいからぶつけてみて、ぶつかった衝撃の中で、自らの存在を確かめてみるようなところがある。そのとき、子どもがぶつかってゆく第一の壁(かべ)として、親というものがある。親の壁にさえぎられ、子どもは自分の力の限界を感じたり、腹を立てたり、くやしい思いをしたりする。しかし、そのような体験を通してこそ、子どもは自分というものを知り、現実というものを知るのである。河合隼雄『心の処方箋』より

- ▶愛情を注ぎながら、壁(かべ)になる。う～ん、難しい。しかし著者は続けます。(以下要約)「分かる分かる」と理解のあるふりをして、子どもとの衝突を避け続ければ、親という壁、歯止めを失った子どもは、その矛先を様々な対象に向けていく。(非行や犯罪へと暴走することもあるという)
- ▶壁(かべ)になるというのは、『子どもの言い分』を一切聞かないという意味ではないと思います。幼児期から愛情深く子どもを慈しみ、物事の善悪をしっかりと教え、個性や特性に応じて伸び伸びと育てていく・・・そういう親としての自覚、子育てに対する覚悟をもちましょう。大変だけれどがんばっていきましょう。そんな意味が込められているのだと思います。

おまけ

子どもの言い分

永井の壁 ～『だけ』対応～

①「なんでゲームやめなきゃいけないの」

「ゲームをすることは悪いことじゃないよ。でも、ゲーム**だけ**しているのは、悪いことなんじゃないの？」

②「お手伝いするからお小遣いちょうだい」

「働いてお金をもらうのは、とても大事なことだね。でも、働いて、お金の**ためだけ**、なのかな？」

③「仲良しといつも一緒だっていいじゃん」

「仲良しといると、最高に幸せだね。でも、協力できるのは仲良しと**だけ**、でいいのかな？」

④「勉強がんばって絶対合格・ごほうびね」

「勉強をがんばる。素晴らしいことだね。でも努力して合格やごほうび**のためだけ**ではないと思うよ。」

⑤「自分は正しい!」「むこうが悪い!」

「自分は正しいと思うこと。それは悪いことではない。悪いのは、自分**だけ**が正しいと思うことなのでは？」

★子どもの『言い分』を認めつつ、自ら考え直すための『ヒント』を与える、という技です。

なお用法にご注意ください。NG例「ゲーム買って～」「それ**だけ**でいいのか～い」「ラッキー!!」

